

日刊木材新聞

発行所 日刊木材新聞社
〒135-0041 東京都江東区冬木23-4
編集・営業 ☎03-3820-3500
FAX03-3820-3519
総務・販売 ☎03-3820-3511
FAX03-3820-3518
https://jfpj.jp/
eメール info@n-mokuzai.com
購読料 1ヵ月 6,200円
©日刊木材新聞社 2021
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

読者と
重ねる
知の年輪
木材建材ワイワリー
Japan Lumber Reports
電子版

集成材工場が設備完工、事業開始

今年度末の本格稼働目指す

FLAM、ウッドコア

福島県双葉郡浪江町が一昨年(2019年)から整備を進めていた福島高度集成材製造センター(FLAM)エフラム)が、18日に機械設備完工式を行い、事業を開始した。今後、運営を委託されたウッドコア(双葉郡、朝田宗弘社長)が機械の調整やJAS認証取得の作業を進めるとともに隣接する製材工場の丸太保管土場の舗装工事を進め、今年度末の本格稼働を目指す。朝田社長は「国、県、町はもちろんのこと、周りの皆様との協力を密にして取り組んでいく。絶対成功しなければならないという責任を強く感じている」と決意を述べた。

FLAMは、国内最大級の中・大断面集成材の量産工場となる計画で、本格操業から3万5000立方メートルを目標とする。5年後をめどに、年間消費量5万立方メートル、東日本大震災に伴う原発事故の影響を受け、同集成材生産量10万立方メートルを目標とする。浪江町が、避難指示解除後の住民の帰還を後押しする目的で整備した。総事業費は55億2000万円で、うち4分の3が福島再生加速化交付金、4分の1が復興特別交付税で賄われ、その他福島県の予算も活用された。敷地面積は約9万4400平方メートルで、集成材棟、倉庫棟、製材棟、ボイラー棟、事務所棟、選木機等など計10棟、機械の工事は巴産業と鈴工が担当した。集成材棟では、ラミナ選別機やプレス機



18日に機械設備完工式が開かれ、吉田町長(右から3人目)や朝田社長(右端)らがテープカットを行った

の試運転が始まっており、機械の調整とJAS認証の取得作業を進める。製材棟では、チップパーカンターと4つの自動積込み機を備えた製材ラインが設置され、夏場に試運転を行う。現在、原木を保管する土場の舗装工事を待つばかりで、製材、集成材そろって今年度末の操業開始を目指す。完工式で吉田教博浪江町長は「原木から製品まで一貫生産できるFLAMは、浪江町の

集成材
FSC® C121389 SSGEC 31-31-1007 緑の環境
お問い合わせ下さい
TSC 株式会社 ティ・エス・シー
〒292-0838 千葉県東金市潮浜2-1-53
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349
ホームページ http://www.syusei-tsc.com

みならず福島県の林業の復興にとって重要な施設。ウッドコアを中心としたコンソーシアムに運営を委託し、機械の調整などを行い、今年度中に本格操業を開始する予定。林業の復興とともに、日本の力一ボニエートラル社得て、限研吾氏の協力を得て、木材をふんだんに使った温かみのある空間を作ると述べている。佐々木恵寿浪江町議長も「FLAMの本格稼働により、浪江町には約50人の新規雇用が見込まれると聞いている。それによって浪江町への移住・定住が加速されることを期待している」と述べた。

ミルフイウッド
Milfy Wood
3ミリの挽き板は無垢を感じる肌ざわり。

ミハマ通商
https://www.mihamatsusho.co.jp

主な記事	
本日12頁建て	
▽11面	相互筑波市場 柱、土台の買い気鋭
▽10面	東北佳産 温暖環境重視の木造3階建て
▽9面	ニースの焦点 建材商社再編60年(上)
▽8面	流山市立おおぐろの森小学校
▽7面	大崎市総合庁舎等 開庁式
▽6面	集成材商況 管柱、出口見えない品不足
▽5面	九州の製品市況
▽4面	大造建築新時代 特別編③ 千葉県
▽3面	流山市立おおぐろの森小学校
▽2面	ニースの焦点 建材商社再編60年(上)

キーテック(東京都、中西宏一社長)は18日、LVL(単板積層材)を生産する木更津工場で来月から減産を強いられることを明らかにした。原料となる輸入単板で入荷が遅れているため、予定していた10月分が手当てできないことが主な背景となる。また、今後入荷して来る原料(単板や接着剤等)のさらなる値上がりが見込まれるため、製品価格の再値上げが避けられないとしている。

同社LVLの主原料となるロシア産単板は、船繰りや船運賃の高騰により、来月から減産を強いられることを明らかにした。原料となる輸入単板で入荷が遅れているため、予定していた10月分が手当てできないことが主な背景となる。また、今後入荷して来る原料(単板や接着剤等)のさらなる値上がりが見込まれるため、製品価格の再値上げが避けられないとしている。

同社LVLの主原料となるロシア産単板は、船繰りや船運賃の高騰により、来月から減産を強いられることを明らかにした。原料となる輸入単板で入荷が遅れているため、予定していた10月分が手当てできないことが主な背景となる。また、今後入荷して来る原料(単板や接着剤等)のさらなる値上がりが見込まれるため、製品価格の再値上げが避けられないとしている。

方財強で、こちらも5月からはフル生産している。特に集成材や米材などの高騰で、代替材としてのLVLの引き合いが非常に盛なことから、5月から注文に込められている。なお、LVLは原料高を理由に製品価格の値上げを複数回実施してきたが、今後入着する木代金のほか、接着剤などの諸資材が値上がりしており、原料コストに応じて再度の製品価格の値上げを要請する方針を立てている。

LVL工場が減産

一方、国産材の取引

社 10-1 277 案